

## リソソーム蓄積症、非免疫性胎児水腫、系統的レビュー .....1

非免疫性胎児水腫 (NIH) におけるリソソーム蓄積症 (LSD) の発現頻度とそのタイプについて調べた。NIH における LSD の発現率は5.2%、特発性 NIH に限った場合は17.4%という結果であった。NIH の症例には LSD のスクリーニングを行う必要がある。LSD が検知された場合にはその後の妊娠において出生前診断を考慮する必要がある。

Lysosomal storage disease as an etiology of nonimmune hydrops

Alexis C. Gimovsky, Paola Luzi, Vincenzo Berghella

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):281-290

【文献番号】 o08600 (新生児異常関連事項)

## 代替療法、子宮摘出、病理検査 .....3

不正出血、子宮筋腫、子宮内膜症あるいは骨盤痛などのために子宮摘出を受けた女性においては子宮摘出の代替となる治療は試みられる割合は低い。これらの適応で子宮摘出が行われた場合、病理組織学的に手術が妥当と判定されないものの割合は18%であった。

Use of other treatments before hysterectomy for benign conditions in a statewide hospital collaborative

Lauren E. Corona, Carolyn W. Swenson, Kyle H. Sheetz, Gwendolyn Shelby, Mitchell B. Berger, Mark D. Pearlman, Darrell

A. Campbell, John O. DeLancey, Daniel M. Morgan

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):304.e1-304.e7

【文献番号】 g07600 (手術関連事項)

## 正倍数性胚移植、妊娠率、ビタミンD、CCS .....6

正倍数性の胚を移植した女性において、ビタミンD レベルは妊娠の結果と関連しなかった。血中の25-OH ビタミンD レベルを測定することは正倍数性の胚盤胞の着床の尤度を予測する方法とはならないと思われる。このような結果は胚培養の延長、CCS のために胚盤胞の biopsy、正倍数性の胚の移植などを試みなかった女性には当てはまらない可能性もある。

Vitamin D levels do not affect IVF outcomes following the transfer of euploid blastocysts

Jason M. Fransiak, Thomas A. Molinaro, Erin K. Dubell, Katherine L. Scott, Andrew R. Ruiz, Eric J. Forman, Marie D. Werner,

Kathleen H. Hong, Richard T. Scott

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):315.e1-315.e6

【文献番号】 r01800 (着床、子宮内膜、サイトカイン、遺伝子、内分泌環境、薬物療法)

## 複合ピル、避妊用パッチ、OrthoEvra、Twirla .....7

LNG/EE contraceptive patch と複合ピルを比較したところ、有害事象の発現率に差異は認められず、また肥満女性群と非肥満女性群に分け比較しても差異は認められなかった。

Safety and tolerability of a new low-dose contraceptive patch in obese and nonobese women

Andrew M. Kaunitz, David F. Archer, Daniel R. Mishell, Marie Foegh

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):318.e1-318.e8

【文献番号】 r12200 (避妊、経口避妊薬、妊娠中絶、IUD、IUS、人口問題、リスク因子、スクリーニング)

## 染色体異常、CGH、核型分析、出生前診断 .....9

系統的レビューを用いて分析したところ、出生前検査において染色体の数的異常や構造異常を検出する上で CGH のほうが核型分析よりも優れており、CGH のほうが感度は高く特異度は同様であった。

Karyotype versus genomic hybridization for the prenatal diagnosis of chromosomal abnormalities: a metaanalysis

Wilmar Saldarriaga, Herney Andres Garcia-Perdomo, Johanna Arango-Pineda, Javier Fonseca

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):330.e1-330.e10

【文献番号】 r09200 (出生前診断、着床前診断、着床前スクリーニング、男女産み分け)

---

## 微小欠失、非侵襲的出生前テスト、SNP、single-nucleotide polymorphism、一塩基多型 ..... 10

single-nucleotide polymorphism (SNP) に基づいた非侵襲的出生前微小欠失スクリーニングは高い精度であることが確認された。臨床的に問題となる微小欠失や重複は母体の年齢にかかわらず 1%超の発現率と考えられており、一般の妊婦を対象とした非侵襲的なスクリーニングを考えてみる必要がある。

Expanding the scope of noninvasive prenatal testing: detection of fetal microdeletion syndromes

Ronald J. Wapner, Joshua E. Babiarz, Brynn Levy, Melissa Stosic, Bernhard Zimmermann, Styrmir Sigurjonsson, Nicholas Wayham, Allison Ryan, Milena Banjevic, Phil Lacroute, Jing Hu, Megan P. Hall, Zachary Demko, Asim Siddiqui, Matthew Rabinowitz, Susan J. Gross, Matthew Hill, Peter Benn

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):332.e1-332.e9

【文献番号】 r09200 (出生前診断、着床前診断、着床前スクリーニング、男女産み分け)

---

## 染色体、異数性、胎児発育、NT、超音波検査、プロゲステロン ..... 11

外因性プロゲステロンを投与することによってNTの値が上昇することが確認された。

Effects of exogenous progesterone on fetal nuchal translucency: an observational prospective study

Claudio Giorlandino, Pietro Cignini, Francesco Padula, Diana Giannarelli, Laura d'Emidio, Alessia Aloisi, Francesco Plotti, Roberto Angioli

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):335.e1-335.e7

【文献番号】 r09200 (出生前診断、着床前診断、着床前スクリーニング、男女産み分け)

---

## 先天奇形、薬剤、疫学調査、高血圧、妊娠 ..... 13

慢性高血圧を有する妊婦において治療群および非治療群のサブグループのいずれにおいても背景となる因子にかかわらず同様に先天奇形のリスク、とくに心奇形のリスクは上昇することが確認された。降圧剤の催奇形性を評価する研究の際には、適応別に背景を補正し検討する必要がある。慢性高血圧を有する母親の胎児および新生児は先天奇形のリスク、とくに心奇形のリスクに関して慎重に調べる必要がある。

Chronic hypertension in pregnancy and the risk of congenital malformations: a cohort study

Brian T. Bateman, Krista F. Huybrechts, Michael A. Fischer, Ellen W. Seely, Jeffrey L. Ecker, Anna S. Ober, Jessica M. Franklin, Helen Mogun, Sonia Hernandez-Diaz

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):337.e1-337.e14

【文献番号】 o09100 (先天奇形、先天性疾患、新生児スクリーニング、リスク因子、放射線障害)

---

## 食道閉鎖、臨床結果、診断時期、出生前診断、出生後診断 ..... 15

食道閉鎖を伴った児において良好な生存率が得られるが、出生前に検知された症例はタイプ1のものや閉鎖部位が延長しているものが多く、合併症の発現率は有意に上昇した。新生児期の治療や1年後の臨床結果には差異は認められないが、出生前の診断によって出産前に親に対するカウンセリングが提供でき、出産後の転送なども回避することができる。

Does prenatal diagnosis modify neonatal treatment and early outcome of children with esophageal atresia?

Charles Garabedian, Rony Sfeir, Carole Langlois, Arnaud Bonnard, Naziha Khen-Dunlop, Thomas Gelas, Laurent Michaud, Frederic Auber, Frederic Gottrand, Veronique Houfflin-Debarge, French Network on Esophageal Atresia

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):340.e1-340.e7

【文献番号】 o09100 (先天奇形、先天性疾患、新生児スクリーニング、リスク因子、放射線障害)

---

## 癒着胎盤、侵入胎盤、超音波検査、予測式、癒着胎盤指数 ..... 18

既往歴や超音波画像診断から個々の患者の病的癒着胎盤のリスクを患者別に予測することができる。

Ultrasound predictors of placental invasion: the Placenta Accreta Index

Martha W.F. Rac, Jodi S. Dashe, C. Edward Wells, Elysia Moschos, Donald D. McIntire, Diane M. Twickler

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):343.e1-343.e7

【文献番号】 o04200 (前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、臍帯異常、胎盤機能不全、前置血管)

---

## 虫垂炎、画像診断、MRI .....22

虫垂炎が疑われた妊婦においてMRIによって高い精度で虫垂炎が診断された。MRIはその後の対応の指針を与える有用な方法である。超音波スキャンでは虫垂が可視化されないものの割合は高いと報告されていることから、MRIが可能な施設においては虫垂炎が疑われた患者にMRIによる画像診断が勧められる。

Utility of magnetic resonance imaging for suspected appendicitis in pregnant women

Lauren H. Theilen, Vincent M. Mellnick, Ryan E. Longman, Methodius G. Tuuli, Anthony O. Odibo, George A. Macones, Alison G. Cahill

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):345.e1-345.e6

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

---

## 出生前副腎皮質ホルモン療法、妊娠、早産、三次医療機関、二次医療機関、紹介、転送.....24

出生前副腎皮質ホルモン投与を受けた女性の中の1/3は7日以内に出産に至り、二次医療機関で副腎皮質ホルモンの投与を受けた女性の半数は三次医療センターに転送された。副腎皮質ホルモン投与のタイミングとその後の三次医療センターへの紹介などを考慮し、副腎皮質ホルモンの投与に関わる管理法の改善を図る必要がある。

Evaluation of strategies regarding management of imminent preterm delivery before 32 weeks of gestation: a regional cohort study among 1375 women in the Netherlands

Merel Boesveld, Martijn A. Oudijk, Steven V. Koenen, Hens A.A. Brouwers, Erik Van Beek, Janine Boon, Addy Drogtop, Robert Euser, Inge M. Evers, Cora A. Fiedeldeij, Karst Y. Heida, Anjoke J.M. Huisjes, Guido J.J.M. Muijsers, Jaap M. Schierbeek, Anneke Kwee

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):348.e1-348.e7

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

---

## 家庭分娩、助産師、周産期合併症 .....27

ACOG やアメリカ小児学会がアメリカ助産師認定委員会が認定した助産師のみが家庭分娩を介助すべきであると発表した。実際にはアメリカにおける計画的な家庭分娩の65.7%はアメリカ助産師認定委員会の認定を受けていない助産師によって介助されていた。

Perinatal risks of planned home births in the United States

Amos Grunebaum, Laurence B. McCullough, Robert L. Brent, Birgit Arabin, Malcolm I. Levene, Frank A. Chervenak

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):350.e1-350.e6

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

---

## 新生児合併症、肩甲難産、介入法、操作法 .....28

肩甲難産の持続期間で補正したところ肩甲難産に関わるいろいろな操作法と新生児合併症との間に相関は認められなかった。臨床家は最も分娩の成功する確率が高いと考えられる操作法を用いるべきである。

Neonatal morbidity associated with shoulder dystocia maneuvers

Janine E. Spain, Heather A. Frey, Methodius G. Tuuli, Ryan Colvin, George A. Macones, Alison G. Cahill

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):353.e1-353.e5

【文献番号】 o04300 (難産、分娩停止、分娩遷延、陣痛促進、肩甲難産、骨盤計測)

---

## 回旋異常、帝王切開、手術的経膈分娩 .....30

回旋異常の患者において器械回旋によって分娩させる方法はしばしば安全性を欠くとみなされている。しかし、選択に関わるバイアスを考慮した場合、新生児の結果が悪化することなく重度の産科出血の尤度を低下させるという結果が得られた。器械回旋に対する産科医の訓練を拡充することは帝王切開率の上昇をしている現在に考慮すべき対応策である。

Management of fetal malposition in the second stage of labor: a propensity score analysis

Abigail R. Aiken, Catherine E. Aiken, Medhat S. Alberry, Jeremy C. Brockelsby, James G. Scott

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):355.e1-355.e7

【文献番号】 o04400 (回旋異常、骨盤位、横位、後方後頭位、低在横定位、CPD、巨大児、骨盤計測)

---

## VBAC、分娩誘発、子宮破裂、待期療法 .....33

妊娠39週における分娩誘発は待期療法と比較しVBACの確率を上昇させるが同時に子宮破裂の上昇ももたらすという結果が得られた。

Induction of labor versus expectant management for women with a prior cesarean delivery

Anna Palatnik, William A. Grobman

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):358.e1-358.e6

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

---

---

**帝王切開、早産、分娩第2期、リスク因子 .....34**

分娩第2期に帝王切開を受けた女性においてはその後の妊娠で自然早産となる頻度は3.5%と全国統計の自然早産の頻度である7~8%、また、分娩第1期で帝王切開を受けたものにおける2.3%を有意に上回った。帝王切開率が上昇しつつあることを考えると妊娠の結果に及ぼすこのような影響を無視することはできない。

Does stage of labor at time of cesarean delivery affect risk of subsequent preterm birth?  
Lisa D. Levine, Mary D. Sammel, Adi Hirshberg, Michal A. Elovitz, Sindhu K. Srinivas  
Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):360.e1-360.e7

【文献番号】o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

---

**妊娠、体重増加、IOM、ガイドライン、周産期合併症 .....35**

妊娠中の体重増加がIOMのガイドラインを超えている女性、特に20ポンド(≒9kg)以上の上昇をみた女性においては母児の臨床結果にネガティブな問題が発生するリスクは有意に高かったが、IOMのガイドラインを下回った女性においては母体の合併症のリスクは低下したが、SGAの児の出産のリスクは上昇した。

Weight gain in pregnancy: does the Institute of Medicine have it right?  
Yen N. Truong, Lynn M. Yee, Aaron B. Caughey, Yvonne W. Cheng  
Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):362.e1-362.e8

【文献番号】o12221 (妊娠合併症、歯周病、生活習慣、嗜好品、薬剤、環境汚染、薬物中毒、HIV、ワクチン)

---

**B型肝炎ウイルス、妊娠、ガイドライン、追跡調査、妊産婦管理 .....37**

妊娠中にHBV陽性と診断された女性においてガイドラインに沿って1年後に追跡調査を受けたものの割合はHBV感染女性のわずか19%であった。不適切な分娩後のHBVに対するケアはいずれの人種の女性にも認められた。プライマリケアの医師を受診しているもの、また、HBV抗原が陽性である女性においてはHBVの専門家によるフォローアップを受ける尤度は上昇した。女性がHBVがより重く複雑なものであると認識している場合はケア提供者は患者を専門家へ紹介する割合が高くなることが示唆された。

Postpartum care for mothers diagnosed with hepatitis B during pregnancy  
Matthew S. Chang, Ruth Tuomala, Anna E. Rutherford, Muthoka L. Mutinga, Karin L. Andersson, Blaire E. Burman, Robert S. Brown, Emily Oken, Chinweike Ukomadu  
Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):365.e1-365.e7

【文献番号】o12221 (妊娠合併症、歯周病、生活習慣、嗜好品、薬剤、環境汚染、薬物中毒、HIV、ワクチン)

---

**双極性障害、出生体重、大うつ病、妊娠、早産 .....38**

二極性障害で入院の既往のある女性においては一般対象者と比較し周産期の臨床結果にネガティブな問題の発生するリスクは上昇し、このリスクのレベルは大うつ病のため入院の既往のある女性と同様であった。これらのリスクは気分障害の既往のある妊婦の管理をする際に考慮する必要がある。肥満、糖尿病、妊娠前的高血圧あるいは妊娠中の高血圧などの変更可なりリスク因子に注意を払うことによってネガティブな周産期の臨床結果を抑制することができると思われる。

Perinatal outcomes among women with bipolar disorder: a population-based cohort study  
Elad Mei-Dan, Joel G. Ray, Simone N. Vigod  
Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):367.e1-367.e8

【文献番号】o12221 (妊娠合併症、歯周病、生活習慣、嗜好品、薬剤、環境汚染、薬物中毒、HIV、ワクチン)

---

**妊娠間隔、流産、妊娠喪失、臨床結果、自然流産 .....39**

生児出生率や妊娠喪失を含むネガティブな妊娠の結果は前回の妊娠喪失から妊娠成立までの期間の短縮とは相関しなかった。妊娠喪失から新たな妊娠までの期間を少なくとも3か月間空けるようにとする伝統的な考えは必ずしも適切ではない。

The effect of a very short interpregnancy interval and pregnancy outcomes following a previous pregnancy loss  
Luchin F. Wong, Karen C. Schliep, Robert M. Silver, Sunni L. Mumford, Neil J. Perkins, Aijun Ye, Noya Galai, Jean Wactawski-Wende, Anne M. Lynch, Janet M. Townsend, David Faraggi, Enrique F. Schisterman  
Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):375.e1-375.e11

【文献番号】o12301 (産科関連事項)

---

**分娩間隔、新生児合併症、分娩週数 .....40**

分娩週数とは独立し妊娠間隔は新生児合併症の有意な寄与因子であるという結果が得られた適切な妊娠間隔を考えている女性にカウンセリングを与える際には新生児の健康について考えてみるのが重要である。

Influence of interpregnancy interval on neonatal morbidity

Emily A. DeFranco, Laura M. Seske, James M. Greenberg, Louis J. Muglia

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):386.e1-386.e9

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

---

**妊娠糖尿病、メトフォルミン、体重減少 .....42**

妊娠糖尿病の女性は分娩後6週間で約6kg体重が減少したが、分娩後にメトフォルミンを投与した群とプラセボを投与した群でこの値に差異はなく、また妊娠前の体重に復帰する女性は50%未満であった。薬剤の服用の遵守度および満足度は高く副作用はほぼ5人に一人の割合で認められ、悪心、下痢、低血糖などが認められた。予想と反しメトフォルミンのメリットを示す根拠は得られなかった。しかし、より長期の治療や大規模な臨床試験で検討する必要がある。

The effects of metformin on weight loss in women with gestational diabetes: a pilot randomized, placebo-controlled trial

Jerrie S. Refuerzo, Oscar A. Viteri, Maria Hutchinson, Claudia Pedroza, Sean C. Blackwell, Jon E. Tyson, Susan M. Ramin

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):389.e1-389.e9

【文献番号】 o03100 (妊娠糖尿病、妊婦管理)

---

**妊娠、合併症、喘息、頸管熟化、分娩後出血、prostaglandinE1 .....42**

分娩時にPGE1の投与によって喘息が悪化するリスクはあったとしても2%未満と推定された。周産期に喘息の患者に投与される薬剤は慎重に選択されなければならないが、今回得られた情報は喘息を有する産科の患者に必要であればPGE1の投与をしてもよいと思われる。

The use of prostaglandin E1 in peripartum patients with asthma

Megan Rooney Thompson, Craig V. Towers, Bobby C. Howard, Mark D. Hennessy, Lynlee Wolfe, Callie Heitzman

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):392.e1-392.e3

【文献番号】 o12221 (妊娠合併症、歯周病、生活習慣、嗜好品、薬剤、環境汚染、薬物中毒、HIV、ワクチン)

---

**遅延臍帯クランプ、臍帯ストリッピング、臨床結果 .....43**

臍帯結紮を遅延させ臍帯のストリッピングを併用したとしてもヘマトクリット値の上昇をもたらすことはできない。28週未満の新生児においては死亡率を低下させヘマトクリット値を上昇させる傾向が認められたが統計的有意差を得るには至らなかった。

Delayed cord clamping with and without cord stripping: a prospective randomized trial of preterm neonates

Margaret S. Krueger, Fabien G. Eyal, Keith J. Peevy, Charles R. Hamm, Richard M. Whitehurst, David F. Lewis

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):394.e1-394.e5

【文献番号】 o08600 (新生児異常関連事項)

---

**子宮頸癌、HPVワクチン、啓蒙活動、接種率、副作用 .....43**

子宮頸癌の予防のためにはHPVワクチンとそのスクリーニングが極めて重要であることを啓蒙するための教育を世界的に促す必要がある。

Japan's failure to vaccinate girls against human papillomavirus

Yutaka Ueda, Takayuki Enomoto, Masayuki Sekine, Tomomi Egawa-Takata, Akiko Morimoto, Tadashi Kimura

Am J Obstet Gynecol.2015 Mar;212(3):405-406

【文献番号】 g02400 (子宮頸部上皮内病変、ワクチン、スクリーニング)

---